

海外現地法人の動向（要旨）

＜海外現地法人四半期（平成 20 年 7-9 月期）調査＞

～平成 20 年 11 月実施～

平成 20 年 12 月 24 日

調査統計部企業統計室

★ 売上高 DI、全地域で調査開始以来最低

☆見通し(現状判断 DI^(*):平成 20 年 10-12 月、先行き DI:平成 21 年 1-3 月)

1. 売上高 DI は、現状判断、先行きとも、前年同期比大幅に悪化し、マイナス水準。
現状判断 DI▲11.5、先行き DI▲14.0 と、調査開始以来最低の水準。北米（現状判断 DI▲31.3、先行き DI▲22.0）及び欧州（現状判断 DI▲16.3、先行き DI▲19.4）は、調査開始以来最低のマイナス水準となり、アジア（現状判断 DI▲6.9、先行き DI▲11.7）は、調査開始以来初のマイナス水準。
2. 設備投資額 DI は、現状判断、先行きとも、前年同期比大幅に悪化。
先行き DI は▲2.1 と、調査開始以来初のマイナス水準。北米（現状判断 DI▲10.0、先行き DI▲8.3）及び欧州（現状判断 DI▲4.0、先行き DI▲7.9）は、調査開始以来最低のマイナス水準となり、アジア（先行き DI▲0.2）は、平成 10 年 7-9 月期調査以来のマイナス水準。
3. 従業者数 DI は、現状判断、先行きとも、前年同期比大幅に悪化し、マイナス水準。

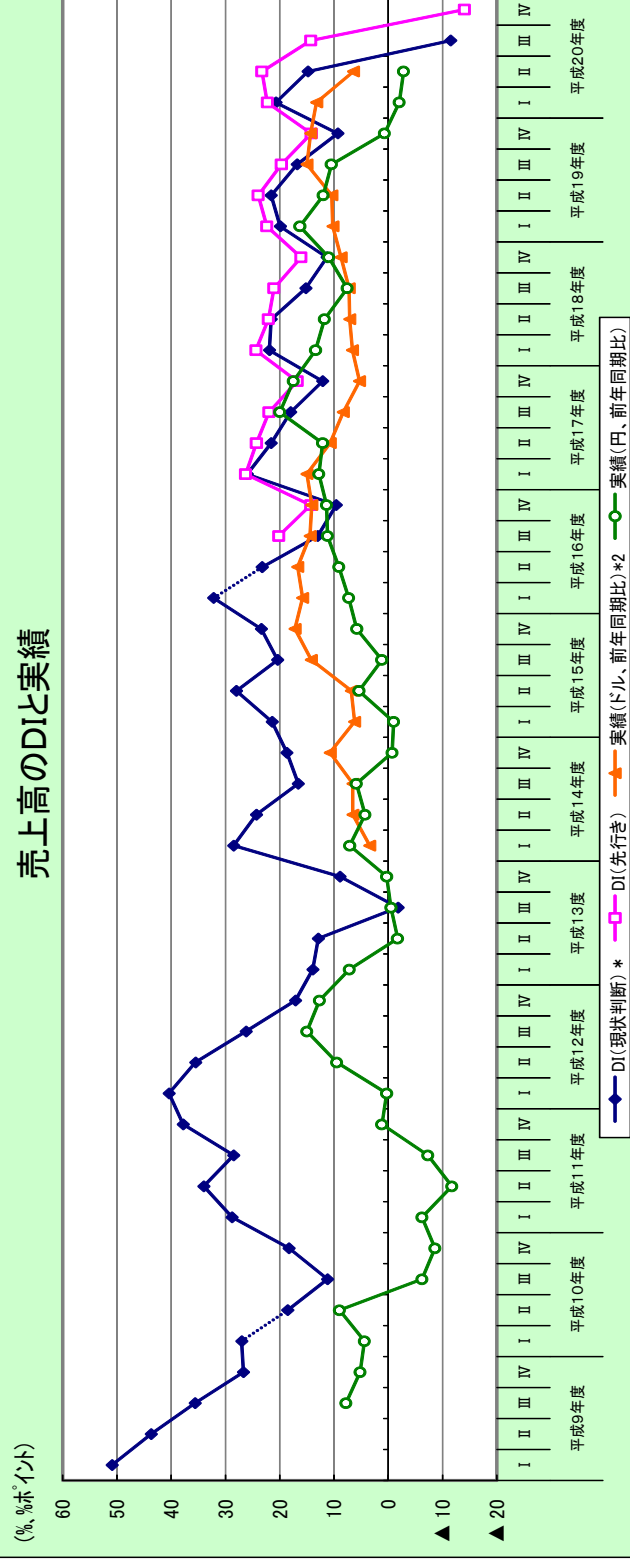
☆実績（平成 20 年 7-9 月、前年同期比伸び率）

1. 売上高（ドルベース）は、前年同期比 6.4%増と、1 桁台に伸び率を縮小。
すべての地域及びすべての主要業種^(*)で、伸び率を縮小。
2. 設備投資額（ドルベース）は、前年同期比 10.8%増と、3 期連続 2 桁台の増加。
欧州（同 26.5%増）及びアジア（同 20.9%増）は、2 桁台の増加を維持したが、北米（同▲11.5%減）は、7 期ぶりの減少。
3. 従業者数は、前年同期比 1.3%増と、伸び率を縮小。
アジア（同 2.5%増）は増加、北米（同▲4.1%減）及び欧州（同▲0.4%減）は減少。

* 1 調査実施時点を含む四半期（現状判断）及びその翌四半期（先行き）に関し、それぞれ前四半期と比較した見通し（「増加」「不変」「減少」）を調査。DI＝「増加」と回答した企業の構成比－「減少」と回答した企業の構成比（%ポイント）。なお、20 年 4-6 月期調査より、DI の比較は前年同期比に変更（現状判断 DI は前年同期の現状判断 DI と、先行き DI は前年同期の先行き DI と比較）。また、本文中、DI 値は数値のみ（例▲5.5）、DI の前年同期比は数値に「ポイント」を付して（例▲5.5 ポイント）記述。

* 2 主要業種： 全 13 業種中、輸送機械、電気機械、一般機械、化学の 4 業種

売上高のDIと実績



* :DIの調査対象期間は、平成9年度調査は調査実施時点を含む四半期、平成10年度～平成15年度調査までは半年(調査実施時点を含む四半期及びその翌四半期)。

平成16年度調査より、前年度までの半年の調査期間を、現状判断(調査実施時期を含む四半期)と先行き(翌四半期)に分割。

* 2:ドルベースの実績値は平成13年度データより公表。

見通し

1. 売上高

<全地域>

○現状判断D I（平成 20 年 10-12 月期）は、▲11.5 と、前年同期比（平成 19 年 10-12 月期の現状判断D I に比べ）▲28.3 ポイント悪化。すべての業種で悪化し、主要業種はすべてマイナス水準。

○先行きD I（平成 21 年 1-3 月期）は、▲14.0 と、前年同期比（平成 20 年 1-3 月期の先行きD I に比べ）▲28.2 ポイント悪化し、調査開始以来最低の水準。食料品を除く全業種で悪化し、食料品及び化学を除きマイナス水準。すべての地域で、大幅に悪化。

<北米>

○現状判断D I は、▲31.3、前年同期比▲42.3 ポイントと大幅に悪化し、調査開始以来最低の水準。輸送機械は、▲50.8 と、同▲66.0 ポイントの著しい悪化。

○先行きD I は、▲22.0、同▲37.8 ポイントと大幅に悪化し、マイナス水準。主要業種はすべて大幅に悪化し、化学を除きマイナス水準。

<アジア地域>

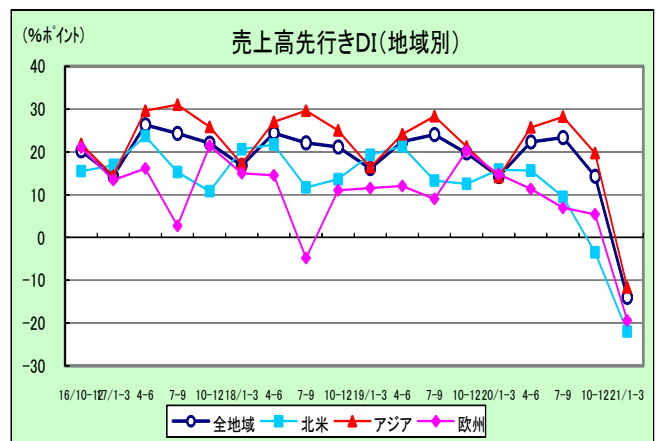
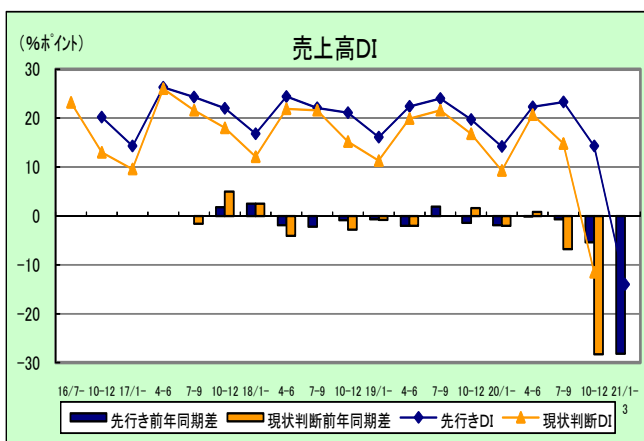
○現状判断D I は、▲6.9 と、前年同期比▲25.7 ポイント悪化し、調査開始以来初のマイナス水準。主要業種はすべて大幅に悪化し、マイナス水準。ASEAN4^(※2)（▲16.7）は調査開始以来最低、中国^(※3)（▲0.3）は調査開始以来初のマイナスとなり、NIEs3^(※4)（▲15.5）は2桁台のマイナス水準。

○先行きD I は、▲11.7 と、同▲25.8 ポイント悪化し、2桁台のマイナス水準。主要業種はすべて大幅に悪化し、マイナス水準。NIEs3（▲19.0）、ASEAN4（▲16.3）、中国（▲9.4）とも、主要業種はすべてマイナス水準。

<欧州>

○現状判断D I は、▲16.3 と、前年同期比▲32.2 ポイントの大幅な悪化。主要業種は、すべて悪化し、電気機械を除きマイナス水準。

○先行きD I は、▲19.4 と、同▲34.2 ポイント悪化し、調査開始以来最低の水準。主要業種はすべて悪化し、化学を除きマイナス水準。



※ 2 ～ ※ 4 ASEAN4：インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア

NIEs3：シンガポール、大韓民国、台湾

中国：香港含む

見通し

2. 設備投資額（有形固定資産（土地を除く）の当期取得額）

<全地域>

○現状判断D I（平成 20 年 10-12 月期）は、+2.4 と、前年同期比（平成 19 年 10-12 月期の現状判断D I に比べ）▲12.7 ポイントプラス幅縮小。

○先行きD I（平成 21 年 1-3 月期）は、▲2.1 と、前年同期比（平成 20 年 1-3 月期の先行きD I に比べ）▲13.7 ポイント悪化し、調査開始以来初のマイナス水準。主要業種はすべて大幅に悪化し、化学を除きマイナス水準。すべての地域で、悪化。

<北米>

○現状判断D I は、▲10.0 と、前年同期比▲20.6 ポイント悪化し、調査開始以来最低の水準。主要業種は、化学を除き、大幅に悪化し、マイナス水準。

○先行きD I は、▲8.3 と、同▲18.9 ポイント悪化し、マイナス水準。主要業種はすべて大幅に悪化し、化学（0.0）を除き、マイナス水準。

<アジア地域>

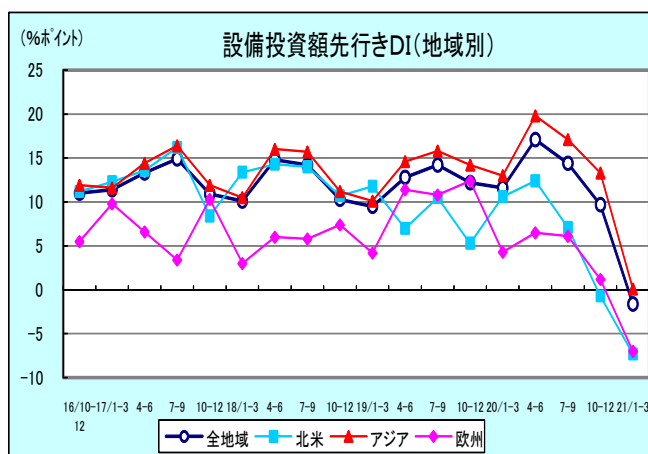
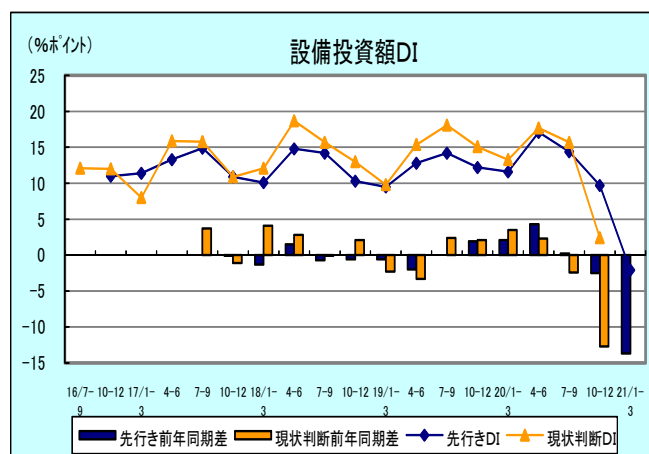
○現状判断D I は、+6.0 と、前年同期比▲10.9 ポイントプラス幅縮小。主要業種はすべて悪化し、電気機械はマイナス水準。NIEs3（同▲17.8 ポイント）、ASEAN4（同▲11.1 ポイント）、中国（同▲9.0 ポイント）とも悪化し、NIEs3（▲5.0）はマイナス水準。

○先行きD I は、▲0.2 と、同▲13.2 ポイント悪化し、平成 10 年 7-9 月期調査（10 年 10 月－11 年 3 月期の見通し）以来のマイナス水準。主要業種は、化学を除きマイナス水準。ASEAN4（▲3.9）は、平成 10 年 7-9 月期調査以来のマイナス水準となり、中国（+1.5）は、プラス水準ながら、調査開始以来最低の水準。

<欧州>

○現状判断D I は、▲4.0 と、前年同期比▲16.1 ポイントの大幅な悪化。すべての主要業種が悪化。特に輸送機械は、同▲43.6 ポイントと大幅に悪化し、マイナス水準。

○先行きD I は、▲7.9 と、同▲12.2 ポイント悪化し、調査開始以来最低の水準。輸送機械は、▲29.5 と、大幅なマイナス水準。



見通し

3. 従業者数

<全地域>

○現状判断ＤⅠ（平成 20 年 10-12 月期）は、▲5.6 と、前年同期比（平成 19 年 10-12 月期の現状判断ＤⅠに比べ）▲13.8 ポイント悪化し、マイナス水準。主要業種はすべて悪化し、化学を除き、マイナス水準。

○先行きD I（平成21年1-3月期）は、▲6.0と、前年同期比（平成20年1-3月期の先行きD Iに比べ）▲15.1ポイント悪化し、マイナス水準。全13業種中11業種で悪化し、10業種でマイナス水準。すべての地域で、悪化。

<北米>

○現状判断D I は、▲17.2 と、前年同期比▲20.4 ポイント悪化し、マイナス水準。輸送機械及び一般機械は大幅に悪化し、輸送機械は▲30.6 と調査開始以来最低の水準。

○先行きD I は、▲16.0 と、同▲20.1 ポイント悪化し、マイナス水準。主要業種は、電気機械を除き、大幅に悪化し、マイナス水準。

＜アジア地域＞

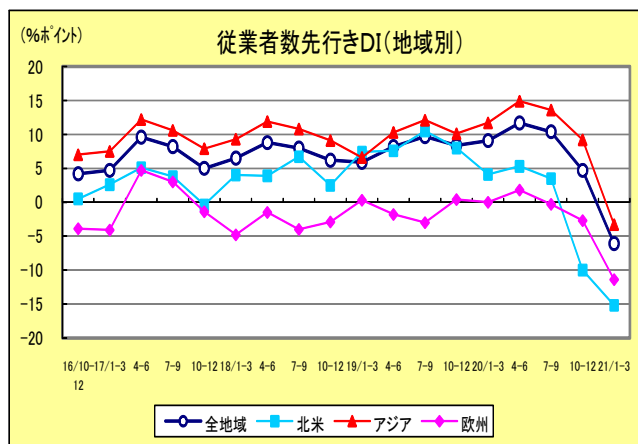
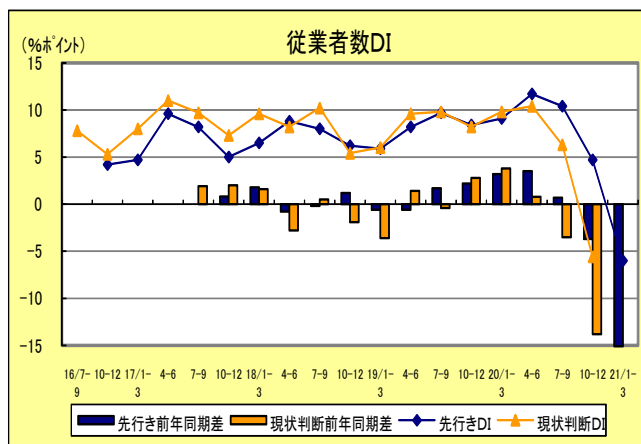
○現状判断D Iは、▲1.8 と、前年同期比▲12.5 ポイント悪化し、マイナス水準。主要業種はすべて悪化し、電気機械はマイナス水準。中国（同▲15.4 ポイント）、ASEAN4（同▲11.0 ポイント）、NIEs3（同▲10.8 ポイント）とも大幅に悪化し、NIEs3 及び ASEAN4 はマイナス水準。

○先行きD Iは、▲3.1と、同▲14.8ポイント悪化。主要業種はすべて悪化し、電気機械及び一般機械はマイナス水準。ASEAN4及びNIEs3は大幅に悪化し、マイナス水準。中国（同▲15.3ポイント）も大幅に悪化し、+0.2とプラス水準ながら、調査開始以来最低の水準。

< 欧州 >

○現状判断D I は、▲12.4 と、前年同期比▲11.0 ポイント悪化し、調査開始以来最低の水準。輸送機械は、▲27.9 と、前年同期比▲30.6 ポイントの大幅な悪化。

○先行きD Iは、▲10.4 と、同▲10.4 ポイント悪化し、マイナス水準。主要業種はすべて悪化し、マイナス水準。



＜参考＞D Iの詳細は、報告書「海外現地法人の動向」P 4～P 15、「統計表」P 21～P 41をご覧ください。

実績

1. 売上高

<全地域>

○売上高実績（平成 20 年 7-9 月期、ドルベース）は、前年同期比 6.4%増と、6 期ぶりに 1 桁台の増加に伸び率を縮小。主要業種はすべて伸び率を縮小し、化学同 9.8%増、一般機械同 7.1%増、輸送機械同 5.7%増、電気機械同 3.7%増と、1 桁台の増加。すべての地域で、伸び率を縮小。

○売上高実績（平成 20 年 7-9 月期、円ベース）は、前年同期比▲2.8%減と、2 期連続減少。

<北米 : 売上高シェア 29.9%>

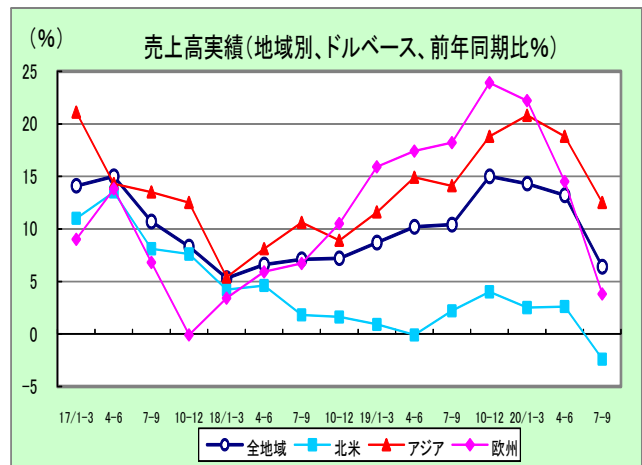
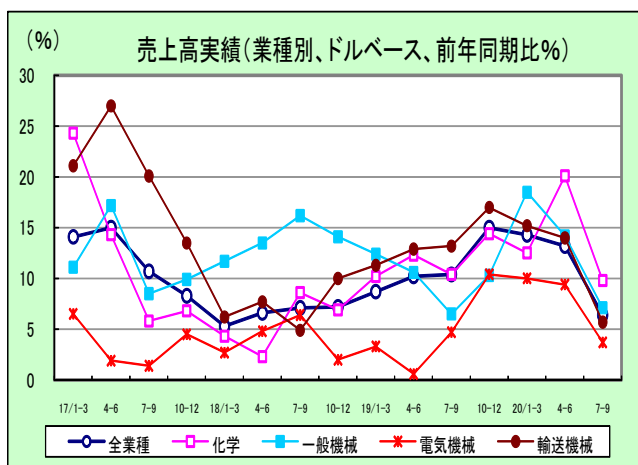
○売上高実績（ドルベース）は、前年同期比▲2.4%減と、5 期ぶりに減少。主要業種はすべて伸び率を縮小し、輸送機械は、同▲7.5%減と 2 期連続減少し、減少幅拡大。

<アジア地域 : 売上高シェア 44.9%>

○売上高実績（ドルベース）は、前年同期比 12.5%増と、7 期連続 2 桁台の増加。主要業種はすべて伸び率を縮小したが、電気機械の同 4.6%増を除き、2 桁台の増加を維持。中国（同 18.8%増）及び ASEAN4（同 10.1%増）は 2 桁台の増加を維持したが、伸び率を縮小。NIEs3（同 2.2%増）は伸び率を縮小し、2 期連続 1 桁台の増加。

<欧州 : 売上高シェア 17.6%>

○売上高実績（ドルベース）は、前年同期比 3.8%増と、8 期ぶりに 1 桁台に伸び率を縮小。主要業種はすべて伸び率を縮小し、特に一般機械は同 0.4%増、輸送機械は同 0.8%増と、わずかな増加。



<参考>実績の詳細は、報告書「海外現地法人の動向」P 16～P 27、「統計表」P 1～P 20をご覧ください。

実 績

2. 設備投資額（有形固定資産（土地を除く）の当期取得額）

<全地域>

○設備投資額実績（平成 20 年 7-9 月期、ドルベース）は、前年同期比 10.8%増と、3 期連続 2 桁台の増加となったが、伸び率は大幅に縮小。化学は同▲13.6%と減少に転じ、電気機械は同 4.8%増、輸送機械は同 3.2%増と、1 桁台に伸び率を縮小。欧州及びアジアは、2 桁台の増加を維持したが、北米は、2 桁台の減少に転じた。

○設備投資額実績（平成 20 年 7-9 月期、円ベース）は、前年同期比 1.2%増と、3 期連続増加したが、伸び率は縮小。

<北米 : 設備投資額シェア 28.2%>

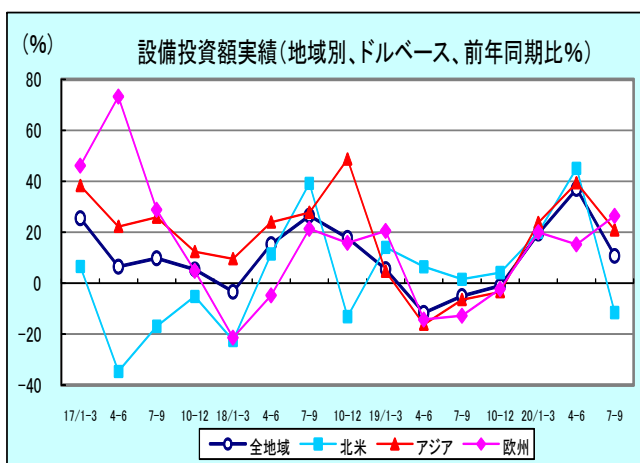
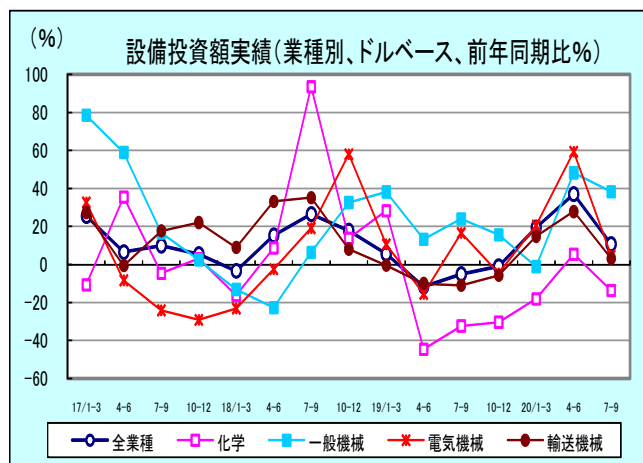
○設備投資額実績（ドルベース）は、前年同期比▲11.5%減と、7 期ぶりに減少。輸送機械は同▲16.8%減と 7 期ぶりに減少。一般機械は同 42.5%増、化学は同 36.7%増と、2 桁台の増加を維持。

<アジア地域 : 設備投資額シェア 51.4%>

○設備投資額実績（ドルベース）は、前年同期比 20.9%増と、3 期連続大幅に増加。化学は、同▲46.5%減と引き続き大幅に減少したが、一般機械は同 79.2%増、輸送機械は同 19.9%増と、大幅に増加。中国（同 31.9%増）は 3 期連続大幅に増加し、ASEAN4（同 6.1%増）は 4 期連続増加したが、NIEs3（同▲8.7%減）は減少に転じた。その他アジア（同 77.2%増）は、輸送機械を中心に引き続き大幅に増加。

<欧州 : 設備投資額シェア 14.6%>

○設備投資額実績（ドルベース）は、前年同期比 26.5%増と、3 期連続 2 桁台の増加。一般機械は同▲15.2%減と減少に転じたが、輸送機械は同 32.3%増と 5 期ぶりに増加。



実績

3. 従業者数

<全地域>

○従業者数実績（平成 20 年 9 月末）は、前年同期比 1.3%増と、引き続き増加。
主要業種は、一般機械（同 9.1%増）、化学（同 3.4%増）、輸送機械（同 3.3%増）は、引き続き増加したが、電気機械（同▲2.2%減）は減少。アジアは引き続き増加したが、北米及び欧州は減少。

<北米 : 従業者数シェア 12.6%>

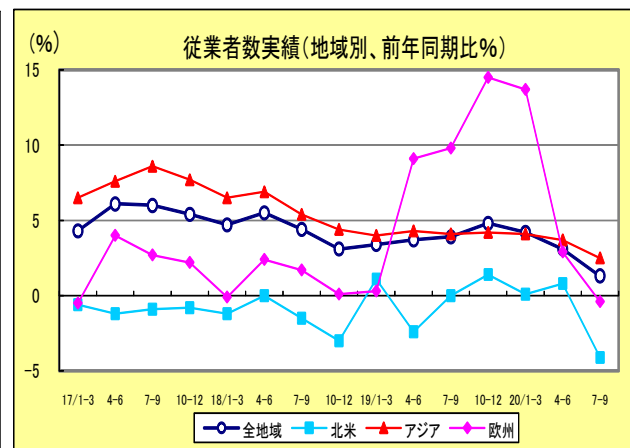
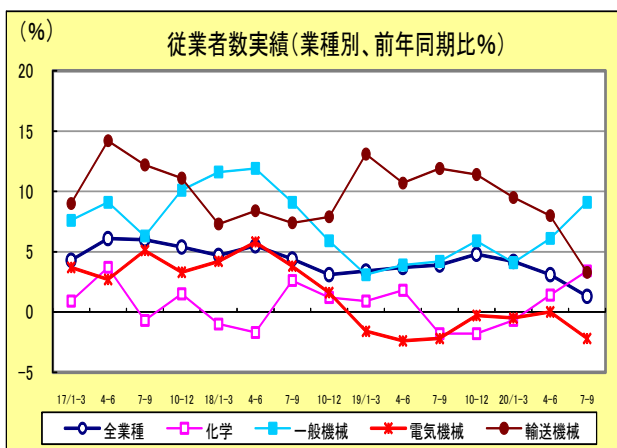
○前年同期比▲4.1%減と、5 期ぶりに減少。主要業種は、化学は引き続き増加したが、電気機械及び一般機械は引き続き減少し、輸送機械は減少に転じた。

<アジア地域 : 従業者数シェア 73.0%>

○前年同期比 2.5%増と、引き続き増加したが、伸び率を縮小。輸送機械は、同 8.8%増と 1 桁台に伸び率を縮小。中国（同 1.8%増）、NIEs3（同 1.5%増）、ASEAN4（同 0.8%増）とも増加したが、中国は、平成 10 年 10-12 月期調査（同 1.7%増）に次ぐ低い伸び率。

<欧州 : 従業者数シェア 8.8%>

○前年同期比▲0.4%減と 10 期ぶりにわずかに減少。主要業種は、電気機械及び化学は減少し、輸送機械及び一般機械は小幅な増加。



<参考> 海外経済

欧米の景気は後退しており、アジアでも減速の動きが見られる。先行きについては、金融危機の影響により、一段の下振れリスクがある。アメリカでは、景気は後退している。先行きについては、金融危機の影響により、一層厳しさが増すリスクがある。アジアでは、中国で景気の拡大テンポがやや鈍化するなど、減速の動きが見られる。中国では、景気の拡大テンポはやや鈍化している。固定資産投資は高い伸びが続いている。マレーシアでは、景気は拡大している。台湾では、景気の拡大は緩やかになっている。タイでは、景気は緩やかに回復している。韓国では、景気は減速している。シンガポールでは、景気は弱含んでいる。ユーロ圏及び英国では、景気は後退している。先行きについては、金融危機の影響により、一層厳しさが増すリスクがある。（「月例経済報告」（平成 20 年 11 月）より抜粋）